

## ゴルフ場における喫煙環境と受動喫煙対策 —九州地方のゴルフ場に対する調査—

北 徹朗<sup>1</sup>、高橋宗良<sup>2</sup>、橋口剛夫<sup>3</sup>、吉原 紳<sup>4</sup>

1. 武蔵野美術大学身体運動文化、2. 杏林大学保健学部  
3. 帝京科学大学総合教育センター、4. 聖マリアンナ医科大学

九州地方のゴルフ場61コースからアンケート調査を回収した。その結果、タバコ対策や受動喫煙防止対策においては基本方針を定めていないゴルフ場が約半数であった。コースラウンド中やクラブハウス内での喫煙が制限されているゴルフ場は少なく、約3割のゴルフ場支配人がタバコを規制することがビジネスに影響を及ぼすと回答した。今後の喫煙対策については、国による規制や業界内ルールの制定を挙げる回答が多かった。

### はじめに

ゴルフは生涯に渡って継続可能なスポーツ種目の一つとされている一方で、プレー中における死亡事故は国内外を問わず多く発生している。ゴルフプレーヤーの年齢構成が中年以上の男性が多いことに加え、この背景としてゴルフはプレー中やプレー間の喫煙や飲酒が概ね許容されている稀有なスポーツであることも考えられる。すなわち、心臓疾患を主因としてプレー中に死亡事故を引き起こすことが示唆されている<sup>1-3)</sup>。我々は過去にゴルフコースラウンド中の心臓自律神経活動の変動<sup>4)</sup>や、ラウンド中の喫煙が心臓自律神経活動に及ぼす影響<sup>5)</sup>について検討した。さらに、国内外のゴルフ場における死亡事故の実態を調査し、飲酒や喫煙を伴うゴルフの危険性を示してきた。今回、ゴルフ場における喫煙環境および禁煙対策の実態について調べることにした。

### 方 法

九州地方のゴルフ場全254コースの支配人を対象に郵送法によるアンケート調査を実施した。調査期間は2012年6月1日～7月31日であり、61コースの支配人から返信を得た(有効回収率24.0%)。調査

項目は北田ら<sup>6,7)</sup>が実施したサービス産業等に対する調査報告を参考に、「コース内やクラブハウス内の灰皿設置場所」、「喫煙ルーム等の有無」、「レストラン内の喫煙環境」、「禁煙対策の有無と内容」、「健康増進法以降の禁煙対策実施の有無」、「タバコ規制とビジネスへの影響について」、「受動喫煙についての見解」、「今後の喫煙対策の在り方に関する見解」について質問した。なお、日本のゴルフ場は未だハーフラウンド終了後に昼食を挟むスタイルが主流であるため、レストラン内の喫煙環境についても個別に質問した。

### 結 果

#### 1. コースラウンド中にタバコが吸える場所

各ティーグラウンド(第1打を打つ場所)上に灰皿を設置しているゴルフ場が約9割(88.5%)であり、「カート内」(77.0%)、「茶屋(休憩所)やトイレ周辺」(62.3%)、「コース内」(19.7%)の順に設置率が高かった。

#### 2. クラブハウス内の喫煙環境

レストランを除くクラブハウス内の喫煙環境では「屋内に喫煙場所(灰皿)を設置している」(49.2%)、「喫煙場所は屋外に設置」(26.2%)、「ハウス内全面喫煙可」(23.0%)の順に多かった。21.3%のゴルフ場では「全面禁煙」もされていた。副流煙を遮断する「喫煙ルーム」を設けているゴルフ場も僅かだが存在した(3.3%)。

### 連絡先

〒187-8505  
東京都小平市小川町1-736  
武蔵野美術大学身体運動文化研究室 北 徹朗  
TEL: 042-342-6377 FAX: 042-342-6377  
e-mail: kita@musabi.ac.jp  
受付日 2013年10月8日 採用日 2013年12月26日

### 3. レストラン内の喫煙環境

「全面喫煙可」(37.7%)、「禁煙席・喫煙席を分けている」(34.4%)、「レストラン内全面禁煙」(26.2%)の順に多く挙げられた。

### 4. ゴルフ場におけるタバコ対策の有無

約半数のゴルフ場(47.5%)では「タバコ対策に関する方針は無い」と回答した。「タバコ対策の基本方針がある」ゴルフ場は21.3%であり、「タバコ対策を現在検討中」のゴルフ場は26.2%であった。

### 5. 「健康増進法」(2003年) 施行以降の取組み

「施行後1年以内に実施した」が11.5%、「3年以内」が8.2%、「5年以内」が1.6%、「7年以内」が3.3%、「何もしていない」が68.9%であった。

### 6. 「受動喫煙」に対するゴルフ場支配人の見解

「ゴルフ場での受動喫煙は全ての人の健康に有害か」について、5件法で質問した結果、「強くそう思う」(18.0%)、「そう思う」(29.5%)、「どちらとも言えない」(34.4%)、「そう思わない」(14.8%)、「全くそう思わない」(0.0%)との結果であった。「ゴルフ場「完全禁煙」は従業員の健康のために有効か」については「強くそう思う」(16.4%)、「そう思う」(29.5%)、「どちらとも言えない」(37.7%)、「そう思わない」(11.5%)、「全くそう思わない」(1.6%)との結果であった。

### 7. タバコ規制はビジネスに影響するか

タバコを規制することによる集客への懸念については「そう思う」(27.9%)（「強くそう思う」と「そう思う」の合計）よりも「そう思わない」(45.9%)（「そう思わない」と「全くそう思わない」の合計）への回答率の方が高かった。

### 8. 今後の禁煙対策に必要な法規制のレベル

必要と考える法規制のレベルとしては「諸外国のような全国レベルの禁煙法」(36.1%)、「各業界団体による自主規制」(31.1%)、「神奈川県のような都道府県による条例」(21.3%)の順に多かった。

### 9. 今後のゴルフ場が喫煙対策を進める上で必要な要素

10項目からの回答を求めた(複数回答可)結果、「メディアによる喫煙・禁煙に関する情報提供」(26.1%)、「業界内・同業者の動向」(26.1%)への回答率が高かった(図1)。

### 考 察

今回の調査結果からゴルフ場における喫煙環境と対策の実施状況に関する基礎資料が得られた。これまでに、ゴルフ場の喫煙環境などを取り上げた研究報告はされていないが、高野ら<sup>8)</sup>の熊本県民を対象にした報告では「受動喫煙を迷惑と感じた場所」について「体育館・スポーツ施設・競技場」(7.3%)が挙げられている。ただ、ゴルフは喫煙や飲酒が概ね許

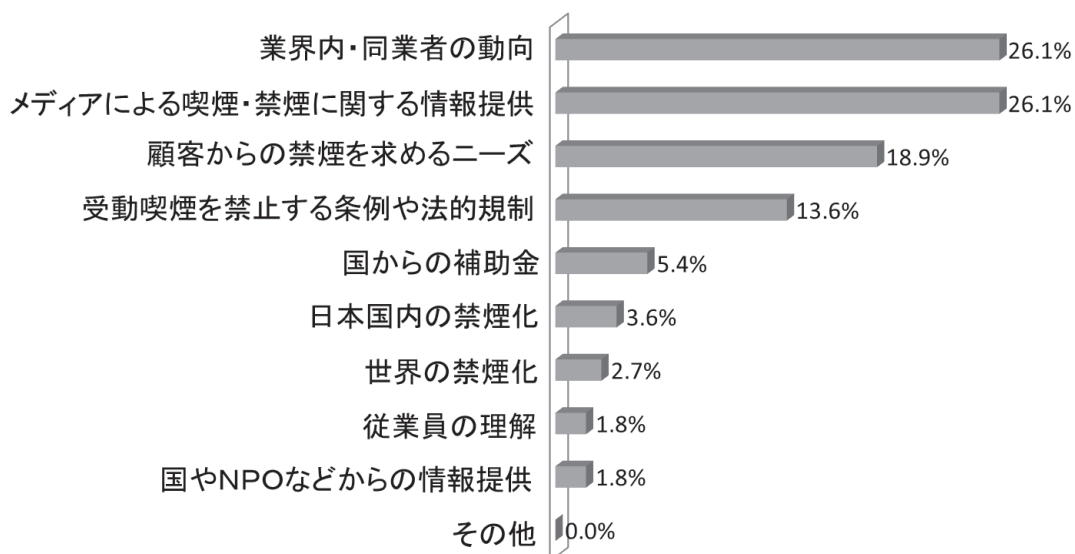


図1 今後「ゴルフ場産業が喫煙対策を進める上で必要な要素」は何か(複数回答)

容されている点から単純に比較対象とすることはできない。喫煙環境が類似したボウリングについては喫煙が迷惑であると感じた場所(「ゲームセンター・ボウリング場・バッティングセンター」(22.2%))として3番目に多く挙げられている。

法規制のレベルとしては「諸外国のような全国レベルの禁煙法」(36.1%)への回答率が最も高かった。北田らの報告<sup>7)</sup>でも同様の傾向であり、サービス産業全体において喫煙を抑制する対策が求められているのかもしれない。

2016年のリオデジャネイロオリンピックからゴルフは正式種目になる。2020年には東京でのオリンピック開催が決定している。東京以外の招致都市にはすでに受動喫煙防止法が制定されている<sup>9)</sup>。日本におけるゴルフ場およびゴルファーにおいても、オリンピック正式種目に恥じないスタイルを示すことが早急に求められている。

#### 追記:

本研究は、2013年度日本禁煙学会調査研究事業助成『日本のゴルフ場における喫煙環境および受動喫煙対策の現状と課題』の一部として実施した。

#### 文献

- 1) Kross BC, Burmeister LF, Ogilvie LK, et al: Proportionate mortality study of golf course superintendents, *Am J Ind Med.* 1996; 29: 501-506.
- 2) 吉原紳, 北徹朗, 加藤象二郎ほか: ゴルフの安全対策-ゴルフ場へのアンケート調査による事故(傷害・障害)の実態と予防対策についての検討. *臨床スポーツ医学* 2011; 28: 92-104.
- 3) 北徹朗, 吉原紳, 山本唯博: 北米のゴルフ場における事故発生状況とリスクマネジメントに関する調査. *臨床スポーツ医学* 2010; 27: 1396-1399.
- 4) 高橋宗良, 北徹朗, 川上哲ほか: ゴルフ・ラウンド中の心拍変動について. *ゴルフの科学* 2011; 24: 62-63.
- 5) 高橋宗良, 北徹朗, 吉原紳: ゴルフ・ラウンド中の喫煙が心臓自律神経活動に及ぼす影響. *ゴルフの科学* 2013; 26: 48-49.
- 6) 北田雅子, 秦温信, 宇加江進: 日本国内の宿泊産業における受動喫煙対策の現状と課題. *禁煙会誌* 2010; 5: 33-43.
- 7) 北田雅子, 秦温信, 松崎道幸ほか: 日本国内の主要外食チェーン企業における喫煙対策の現状と課題. *禁煙会誌* 2012; 7: 8-16.
- 8) 高野義久, 橋本洋一郎, 川俣幹雄ほか: 熊本県民の受動喫煙に関するアンケート調査. *禁煙会誌* 2012; 7: 83-92.
- 9) 日本禁煙学会ウェブサイト: オリンピックと禁煙. <http://www.nosmoke55.jp/action/olympic.html>, 2013年10月25日確認

## Current situation of smoking environment and measures against passive smoking in golf courses –A survey of golf course in the kyushu region–

Tetsuro Kita<sup>1</sup>, Muneyoshi Takahashi<sup>2</sup>, Takeo Hashiguchi<sup>3</sup>, Shin Yoshihara<sup>4</sup>

#### Abstract

A survey was 61 golf courses in Kyushu region. The result indicated that about half of the golf courses had not stipulated any fundamental policy on tobacco-related measure or passive smoking prevention measure. In addition, there was only a small number of golf courses that restricted smoking on the golf courses and inside the clubhouses, and about 30% of the golf course managers that responded stated that putting some sort of limitation on tobacco-smoking would have adversarial effect on their business. Further, as for the future anti-smoking measure, many of them responded that some national regulation or intra-industry rule could be stipulated.

#### Key words

golf course, measures against passive smoking

<sup>1</sup> Department of Health, Sports and Physical Arts, Musashino Art University, Tokyo, Japan

<sup>2</sup> School of Health Sciences, Kyorin University, Tokyo, Japan

<sup>3</sup> Center for Fundamental Education, Teikyo University of Science, Tokyo, Japan

<sup>4</sup> Department of Physiology, St.Marianna University, Kanagawa, Japan